

令和6年度第1回魚沼市男女共同参画推進委員会 会議録

日 時	令和6年7月1日(月) 14時00分～15時30分
場 所	本庁舎3階 305会議室
出席者	【委 員】 星敏夫会長、山内由美副会長、堀川祐里委員、星靖子委員 横山美智子委員、酒井直子委員、坂本淳委員、横山セツ子委員 奥田千佳子委員 【事務局】 企画政策課 五十嵐課長、渡邊係長、内田主任

(会議の要旨)

1 開 会 (14:00)

2 あいさつ

3 自己紹介

4 報 告

魚沼市男女共同参画推進計画における令和6年度推進事業について

(事務局)

配布資料『男女共同参画社会』とは』及び「魚沼市男女共同参画推進計画における令和6年度推進事業について」を説明。

(会長)

事務局の説明について、質問や意見はあるか。

(意見なし)

5 協 議

男性の家事参加について

(事務局)

昔と比べて共働き世帯が増える一方で、家事や育児などは女性が未だに主体的に行っている状況の中、男性の家事参加は重要なことだと思う。男性の育児休業取得は、男性の家事参加を促すきっかけではないかと思う。男性の育児休業取得促進奨励金を取得した男性労働者の体験記から育児休業中の過ごし方などを紹介するので、男性の家事参加に関する意見をいただきたい。

(会長)

事務局の説明について、質問や意見はあるか。

(委員)

妻や家族からの感想を聞く機会はないのか。

(事務局)

今のところない。

(委員)

実際に男性が育児休業を取って良かったと言っている部分を、妻や家族がどう思っているのかと思った。実際のところ感じ方に差があると思う。

(事務局)

申請のあった男性の育児休業期間は、2週間から1か月程度でそれほど長くはない。体験記にも、育児休業を1か月取った程度で妻の負担が軽減されたのかという疑問を抱いたとの意見がある。

(委員)

私の会社では、基本的に家族との時間、子供との時間を大事にしろと言っている。特に育児休業とかはなくて、その代わり、子供の送り迎えであったり家族が熱を出したときには、出勤日、出勤・退勤時間を一切決めていないので、自分の業務のなかで好きな時間に出勤して、好きな時間に退社して、好きなときに休みを取っている。もちろん自分の趣味に使ってもいいが、家族との時間、子供との時間を一番考えて、チームでやりくりしなさいと言っている。実際、育児休業は本当に一時的である。それで本当の育児になるのかというと難しいと思う。会社でなかなかできないが、子供を職場に連れてこいと言っている。子供を職場に連れてきて、他の人たちが子供を見てるとか、例えばベビーシッターとか、保育士経験者とか。会社に未就学児を連れてこれる環境があれば、何かこう変わるのかなと思う。当事者だけではなく、社会、会社、地域全体で意識を変えてかなきゃいけない。

(委員)

私の会社では、男性育休を取る人がどんどん増えている。育休を取らない人の意見として、共働きが当たり前の時代になってきているので、2人で育休を取ると収入が減ることと、戻ったら居場所がないんじゃないかというのと、そもそも配偶者の方が望んでないというのがある。男性育休の取得率はすごく高いが、その中身はどうかということだと、1日育休を取っただけでも育休ということになるし、1か月取る人、3か月取る人、1年取る人といろいろいる。中身の検証はしていかなきゃ駄目だということをいつも話している。

(委員)

私の会社でも、ここ1、2年は男性の育休を取得する人が増えてきたという印象がある。収入が減ることを心配している人がいるという話があったが、つい最近育休を取った人がいて、思っていたよりも育児休業給付金が入って良かったと言って

いた。そういう情報がどんどん広まっていけば、心配せずに育休を取れる人も出てくるかなと思う。あと、女性目線から行くと、男性が育休を取ったとしても、どうしても妻が家事をすることになって、その間子供の面倒を夫が見ているというのが主流みたいになっている。そうすると結局ご飯も自分で作らなきゃいけないし、自分1人だったら適当に済ませられるのにそうもいかないの、夫がいない方がいいという意見も聞く。ご飯作りが結構手間だと思うので、今流行りの作り置きして冷凍しておくとか、そういう知識が男性にもあれば、2人でまとめて作って温めて食べるぐらいのレシピを、育休前のパパママ準備教室などで集まるときにでも出していただければ参考になると思う。

(委員)

私の住んでいる地区には、結構小学生とか小さな子がいるけれど、男性が育休を取っている感じはなかなか見当たらない。食事の面とかになると、家事を全部網羅して引き受けてやるっていう男性はなかなかいないような感じがするので、これからの課題ではないかと思う。以前職場に勤めてた頃、育休というのは、半年から1年ぐらいとるのが大体の人の感じだった。給料も何割かは入ってくるが、一番心配するのは、出てきたときに、自分の居場所がなくなる、キャリアがみんなに置いていかれるような気がするというのは、やっぱり男性にとって一番の、何かショックというか、障害みたいで、職場にしてみれば、その人がいなくても何とか回さなければならぬから、出てきて居場所がなくなってもしょうがないというのが、みんなの声みたいな感じがしてなかなか難しいと思った。

(委員)

育休を取るタイミングは、その家庭ごとに違うと思う。生まれたばかりに取ってもらいたいときもあるし、生まれたばかりは、実家に里帰りするからいいけれど、帰ってきて家族だけで育児をやるとかいうときに大変だとか、いやいやもうちょっと大きくなって、子供の送迎とか、もっと言ったら、高校生ぐらいになったときに、お弁当も作る、駅にも送らなきゃならないとかなったときに、下の小学生とかをどうするかとか、その取りたいタイミングっていうのは、人それぞれなんじゃないのかなと思う。男性育休は出産直後っていうふうにクローズアップされがちだと思うが、いつでも取れるみたいなそういうふうな社会になっていったら、より育てやすくなるのかなと思う。

(委員)

体験記にあった、定時に帰宅できるよう仕事の効率化を図っているという男性の理想が素晴らしいと感じた。娘が海外で暮らしているが、向こうでは出産したときに1日しか病院にいられないため、娘の夫が最初は仕事をほぼやめて主夫をしていた。その方が税金が安いし、ベビーシッターを頼むより安いという、国のシステムの違いもあるが、男性が育休を取ると、何で男が働かないというのは日本では多いと思う。そういう職場環境を変えていかなければいけないのではないかとすごく感

じる。

(会長)

男性が育児休業を取るのも当たり前、女性を取るのも当たり前という、子供のためになるんだったらどちらでもいいっていう、それが当たり前の世の中になることはすごく大事なことだ。

(委員)

男性の育児休業は、学生たちも毎年興味を持っている話題で、卒業論文を書かせると数名のうち必ず1名くらいは男性の育児休業を考えている。女子学生がやる時もあれば男子学生が取り組むこともある。これからの世代にとっても大事なことで、なんだなと思って聞いているが、ただ、この問題が叫ばれ始めてから、解決しないまま早15年ぐらい経っている。私が大学生のときも、男性の育児休業をどうするか、よくゼミでテーマに上がっていたが、結局今も解決しないから、今の子供たちもまたテーマにするので、そういう意味ではすごい根深いと感じているところである。育児だけではなく、この家事負担みたいなのは、大きな話題だというふうに感じている。これが自然にうまく分担されている家は、多分育児のことも大して大きなハードルに思わないのかなと感じている。労働の話をするときに、当たり前すぎてあまり概念として把握されていないキーワードがある。経済学の中では労働力の再生産と言い、労働力は1日消費すると使い果たすので、明日また労働力を使えるようにするために回復させる部分のことを指すが、その労働力の再生産のなかにも、ご飯を作ったり、家の中をきれいにし寝る準備をするなどの労働が含まれている。そういうサイクルの労働力の再生産部分を明確に認識すると、多分それぞれの家庭がうまくいくのではないかなと思う。夫が定年退職を迎えた夫婦の話だが、夫は労働力で再生産は妻が担っていた家庭で、退職した後もある意味この再生産というか生きていくための家事の部分はずっと続いていくが、夫の中ではやる事がなくなったみたいな感じで、妻はやることないなら家事をすればと思うけど、夫からすればそういうことではないらしく、ボランティアに行くみたいな、妻はそうじゃなくて家事をしてくれっていう話をしていた。そういうことを考えると、子育て世代だけじゃなく、その親世代が今まで家事を性別で分担していた世代だと思うので、自分で暮らす、生きていくための家事は自分で世話するものだというふうに変わっていくと、自然とこの家事と育児のところも少し緩和されていって、1日取った育休みたいな形骸的なものではなくて、持続可能にみんなが分けることができるのではないかなと思った。

(委員)

紐を結ぶことは家事の基本だが、体験学習で紐を結べない中学生がいる。お願いだから来る前に紐の結び方ぐらい生徒と練習してほしい、そういう教育をして欲しいと先生にお願いすることがある。家庭の身近なものを、男子も女子も中学校ぐらいまでのカリキュラムの中で、もう少し取り入れてくれたらいいかなと思う。本来は

親がすることだが、なかなかできない方もいるので、そういう学校教育自体も変えていけば、家事が身近なもの、お母さんがするものじゃなくなるのではと思う。今は昔あったようなハサミで切るとかのり付けするとか、家事に結びつくような授業が減ってるんじゃないかを感じる。

(委員)

会社員だった頃の経験から、子供ができて、その子供との時間が取れないっていうのに疑問を持っていて、子供との時間を取るためにそれを先に考えて他の時間を仕事に回せばいいという考えの中から、自分の仕事のあり方っていうのを見直してきた。それを自分だけではなく、社員に波及させていきたいというのはあるが、中小企業が多いところでいくら育休が取れるよ、給付金出しますよと言っても、本当にそれを取られて休まれてしまうと、会社そのものが回っていかないことになるんじゃないのかなと、そこに何か施策を打っていかないと、根本的なことは変わっていかないと思う。保育園に預けるのもなかなか簡単ではないというのが実際あると思うので、会社に託児所があるといいなと思う。

(会長)

従業員もそこにいて、場合によって社長の妻が子どもたちを見て、その間仕事できるとか、世の中全体がそういう雰囲気になっていくといいと思う。

(事務局)

この会でいろいろ話をいただいたり、男子高校生から育児休業についての話をいただいたりする中で、労働環境の整備と子育ての充実というところで、人口増に結びつくのではないかとということと併せて育児休業取得促進奨励金を始めさせてもらった。今の制度では、連続した2週間以上育児休業を取ることになっているが、この内容が絶対とはあまり思っていないくて、これからまたいろいろ世の中が変わればそれに対応していきたいと考えている。

(会長)

いろいろ皆さん方の声が上がってきて、それをもとにまたちょっと変えるということは、検討の余地はあるということか。

(事務局)

そうである。市によっては育休期間を1か月としているが、雇う側は人がいなくなるし、雇われている側は収入が減るということがあるので、まずは今の制度を広めようと考えている。

(会長)

育休を取りやすい環境というのは、連続じゃなくても、例えば1週間に2日とか3日とかでも取れるというものだと思う。連続して2週間育休を取れば奨励金をあげるとか、1か月育休を取らなきゃだめとかではなく、その間働くこともできる育休を選べるとか、利用者側にとって使いやすい形で、いろんな意見を聞くというのはどうかと思ったが、その辺はどう思うか。

(事務局)

意見を聞くのはありえることである。育休を取って5万円もらってもらうのは、通過点であって、最終的には男性が育児休業を取れるというのが普通の感覚になることである。国との兼ね合いなどで問題なければ柔軟に考えていきたい。

(会長)

取りやすい、使いやすい環境があってもいいのかなと思う。

(事務局)

市の補助金制度の中に、ベビーシッターの雇用というのはないが、もしかしたら、こういうものができるといいのかなという気がした。

(委員)

話を聞いていて思ったが、この育児休業取得促進奨励金は、配偶者の男性、夫に限定されている。例えば同居のおじいちゃんやおばあちゃんとか、夫に限らず、例えばシングルで暮らしてる方にそのご兄弟と一緒に住んでいるとか、育児を助けてくれる人誰もが申請できれば、もっと使いやすくなる。幅が広がって大変かもしれないけど、魚沼は同居されてる方が多いと思うので、おじいちゃんやおばあちゃんが使えたらいいと思う。

(委員)

私たちの会社には若いおじいちゃんおばあちゃんが結構いるので、孫育休みたいなのを作ろうみたいな話が出ている。実現していないが、育休を取りたい時期はみんな違うというのがある。労働組合で毎年会社と交渉して、制度とかが決まるが、今年から育休の分割取得ができるようになった。先ほどの話にもあったが、例えば、1か月取って、また働いて、また1か月取ってみたいなことができる。取り方は5パターンぐらいあり、妻と一緒に取りたい方やずらして取りたい方に、こういうふうにできますといった具合に示されている。

(委員)

まだ現役で働いていて、でも孫がいるという方はすごく多いと思う。その方々も育休が取れて、みんなで子どもを見ていけたらいいと思う。

(事務局)

男性も料理を含めいろいろな家事ができる方がいいと思う。育児休業をきっかけに家事を始めたとして、その後も誰かが入院したときや親の介護が必要になったときなどに役立つと思う。家事の分担について話し合うことが大切だと思うが、こうしたらうまくいったなどあるか。

(委員)

料理について、男性が料理を好きになるようにすればするようになると思う。

(委員)

料理はできないが、皿洗いとかできない分できることをやっている。今は、結構男子がやるようになってきている気がする。多分私の世代が、ちょうど半々ぐらいかな

っていうところで、下はどんどんと男性の方がかえって料理もするし、亭主関白なんて死語になってきてるみたいなのところもある。

(委員)

一生家事はしていかなきゃいけないから、やっぱり若いうちに身につけておいたほうがいいと思った。

(委員)

男性向けの料理、洗濯、掃除など家事全般の講習会の企画はどうか。

(委員)

今の若い男性はびっくりするくらい家事をする。先に帰ってきた方がご飯の支度してるとか、休みのある方が洗濯するとか、20代だと割とそういう子たちが多くて、私たちの時代とはだいぶ違うなという感じがする。

(会長)

大学とかで、男性も女性も単身でアパートなどに入って自炊をするとか、そういったところで培ってきたんじゃないかと想像する。

(委員)

話が変わるが、体験記で復帰後は、定時に帰宅できるよう仕事の効率化を図っていると言っているが、家に帰って家事育児がある人が、残業できないから残業できる人と同じ量の仕事をきっちり終わらせて帰っていることを会社がわかっているともういたいと思う。

6 その他

(事務局)

今年度、男女共同参画意識調査を行う年である。アンケートの内容について、皆さんから見ていただく機会を作ろうと思っているので、そのときは意見をいただきたい。

新潟県が、今年度、パートナーシップ制度（仮称）を導入する。パートナーシップを宣誓された方に対して、市でどのようなサービスを提供できるか検討を始めたところである。次回の会議までに何か進展があれば報告させてもらう。

7月27日に男性の育児休業に関するセミナーをボランティアセンターで開催する。

7 閉 会 （終了 15:30）